

技術検定の再編

キャリアパスが変わる

日本建設情報センター(CIC)は、これまで22年にわたって建設業の資格取得に特化して受験者の試験対策をサポートしている。オンラインで受講できる映像通信講座も開講し、多忙な社会人でも継続的に学習できるのが強みだ。技術検定再編事業室の岡田政則室長は、今回の技術検定の再編について「2級合格者は実務経験がなくても1級第1次検定を受験できるため、受験者数の増加につながるのではないかとみている。自身も1級建築施工管理技士の資格を持つ岡田室長に再編後の試験対策や受験者の動向について聞いた。

「CICでは、施工管理技士の資格取得のためにどのような試験対策を行っているのか。過去の出題傾向を押さえた通学講座とウェブやDVDなどの映像通信講座で受験者をサポートしている。学習の時間をとりにくい受験者向けに立ち上げた映像通信講座では、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、通学講座から切り替える受講者が増えている。受講者は、1級技術検定の受験資格である実務経験を満たす30代後半を中心とし、50代までと幅広い」



日本建設情報センター 技術検定再編事業室 室長 岡田 政則氏

「1級技術検定の再編により、2021年度の技術検定は試験内容が変わります。今までは、四肢択一のマークシート形式の学科試験で専門分野・法規・施工管理法などの知識を、記述式の実地試験で高度な応用能力を求められる傾向にあった。再編後の1級技術検定では、第1次検定で『監理技術者補佐』として施工管理を的確に行うための知識・応用能力を、第2次検定で施工管理法に基づく応用能力と『監理技術者』としての確に施工管理を行うための知識が問われるようになる。再編後もツールで求められる工事の施工や管理に関する能力に変わりはないが、これまでの試験問題を択一式と記述式のどちらでも解答できるように、現場での経験・知識を深めることが重要になる。再編後初めとなる21年度試験は解答方法に戸惑う受験者も多いはず。効率的に試験対策ができる講座を提供したい」

「さらに、技士補の資格を得ていけば、これまで2回だった学科試験免除とは違い、無期限に第2次検定にチャレンジできるようになる。企業も雇用する技術者に受験を勧めやすくなるし、技術者本人の受験意欲も高まるはずだ」

技士補の社会的評価に期待 合格へ経験・知識の深化を

「1級技士補を取得すれば、監理技術者補佐という新しい活躍の場も与えられます。1級技士補には、監理技術者補佐として監理技術者をサポートする役割が与えられる。雇用する企業にとっても、監理技術者の現場の負担を軽減できるだけでなく、経営事項審査の加点、監理技術者の業務による受注工事の増加といった、インセンティブを受けられる。今後、技士補の資格取得に対する社会的評価も高まっていくはず。こうした意義が、技術検定を受験する若手技術者にもしっかりと伝わっていく」

り、通学講座から切り替える受講者が増えている。受講者は、1級技術検定の受験資格である実務経験を満たす30代後半を中心とし、50代までと幅広い」

技術検定の再編により、2021年度の技術検定は試験内容が変わります。今までは、四肢択一のマークシート形式の学科試験で専門分野・法規・施工管理法などの知識を、記述式の実地試験で高度な応用能力を求められる傾向にあった。再編後の1級技術検定では、第1次検定で『監理技術者補佐』として施工管理を的確に行うための知識・応用能力を、第2次検定で施工管理法に基づく応用能力と『監理技術者』としての確に施工管理を行うための知識が問われるようになる。再編後もツールで求められる工事の施工や管理に関する能力に変わりはないが、これまでの試験問題を択一式と記述式のどちらでも解答できるように、現場での経験・知識を深めることが重要になる。再編後初めとなる21年度試験は解答方法に戸惑う受験者も多いはず。効率的に試験対策ができる講座を提供したい

「新しく技士補の資格が取得できるようになると、受験者の行動にも変化が生まれるのではないかとみている。再編後の1級技術検定では、第1次検定で『監理技術者補佐』として施工管理を的確に行うための知識・応用能力を、第2次検定で施工管理法に基づく応用能力と『監理技術者』としての確に施工管理を行うための知識が問われるようになる。再編後もツールで求められる工事の施工や管理に関する能力に変わりはないが、これまでの試験問題を択一式と記述式のどちらでも解答できるように、現場での経験・知識を深めることが重要になる。再編後初めとなる21年度試験は解答方法に戸惑う受験者も多いはず。効率的に試験対策ができる講座を提供したい」

2021年4月22日付 建通新聞第1面